明治国際医療大学誌　30 号：27-31，2023
©明治国際医療大学

演　題　一　覧　表

・東洋医学的セルフケアの可能性―南丹市日吉町胡麻における実践から―

河井　正隆（人文科学・外国語ユニット），
大澤　誠（鍼灸学科 4 年生），豊田　和晃（鍼灸学科 4 年生）

・運動単位活動電位の伝播速度による筋疲労評価システムについての検討

赤澤　淳（自然科学ユニット）

・体性一次感覚ニューロンの末梢と中枢をつなぐ

村本　大河（鍼灸学科 3 年生），
小池　太郎（関西医大），榎原　智美

・皮膚灸刺激による脾臓でのサイトカイン産生誘導のメカニズムの解析
～体性感覚神経の関与の検討～

伊部　功記(鍼灸学科 4 年生)，大下　紘平(鍼灸学科 4 年生)，
千葉　章太，糸井　マナミ

・発達障害に対する鍼灸治療の文献研究

荒木　美紗江（修士課程 鍼灸学専攻 1 年生），
福田　文彦

・パクリタキセル誘発性ケモブレインモデルラット作成

平岩　慎也（修士課程 鍼灸学専攻 1 年生），
福田　文彦

・灸刺激による自律神経の過渡応答解析

三村　晃満（修士課程 鍼灸学専攻 1 年生），
福田　文彦

・行政保健師の経験学習プロセスに基づく人材育成
―熟達保健師の成長を促す経験と教訓に関するインタビュー調査を踏まえて―

大倉　和子（広域看護学ユニット）

・Jamboard を用いた認知症ライフサポート研修のオンライン化
—3 人の対面型研修経験者に対する試行と事後インタビューから—

森岡　朋子（広域看護学ユニット）

・学部教育における老年看護学の教育を考える—第 2 報—

栗山　真由美（広域看護学ユニット），
東　孝至

・老年看護学実習レポート分析からみえる教育的課題

東　孝至（広域看護学ユニット），
栗山　真由美

・感染症発生後の A 病院における新生児ケアを担当する看護者への感染予防に関する負荷の検討

中井　かをり（広域看護学ユニット）

・正常新生児への看護量測定にかかる研究方法の検討

中井　かをり（広域看護学ユニット）

※下線は，筆頭発表者を表す.

運動単位活動電位の伝播速度による筋疲労評価システムについての検討

赤澤　淳

基礎教養講座　自然科学ユニット

筋疲労は運動によって筋肉が発生させることのできる最大の力が低下することである．表面筋電図を用いて筋疲労の程度を評価する方法は数多く開発されている．Farina らは短母指外転筋を対象として，被験者の筋疲労を促進するために止血用圧迫帯を用いて虚血状態において計測を行った． 0～10%MVC において，27 回のランプ状収縮を行い，運動単位活動電位波形の解析を行ったところ，単一運動単位の活動電位波形の振幅が経時的に減少し，波形は緩やかな曲線を描き，持続時間は延長した(Farina， 2016)．しかし，このような筋疲労による活動電位波形の形状変化が何に大きく依存するのかほとんど記載がなかったために，本研究において神経制御システムを考慮したシミュレーションモデルを適用して検討を行ったので報告する．

皮膚灸刺激による脾臓でのサイトカイン産生誘導のメカニズムの解析
～体性感覚神経の関与の検討～

伊部　功記(鍼灸学科４年生)，大下　紘平(鍼灸学科４年生)，

千葉　章太[1)]，糸井　マナミ[1)]

[1)]基礎医学講座　免疫･微生物学ユニット

局所の灸刺激は免疫系や生体防御系に作用すると考えられているが，その作用及び作用機序に関する十分な検証はなされていない．本教室の Takayama らの報告では，マウスの足三里(ST36)相当部位（両側）への灸刺激により，施灸部位を含む皮膚および脾臓において種々のサイトカインの産生誘導が示されている．しかしながら，皮膚局所への灸刺激で生じる作用がどのように伝達し，離れた二次免疫器官である脾臓でのサイトカイン産生の変化をもたらすかは不明である．そこで本研究では坐骨神経の外科的除神経動物モデルを用いて，足三里(ST36)相当部位への皮膚灸刺激による脾臓でのサイトカイン産生誘導における末梢神経の関与を検討した．

外科的除神経は片側のみ行うため，まず，健常マウスにおいて片側 ST36 への灸刺激で脾臓でのサイトカイン産生を惹起しうる灸刺激量について検討した．その結果，片側５壮（半米粒大）の透熱灸によって，脾臓でのサイトカイン（IL-1β,TNF-α）の産生増加が確認された．次に，外科的に坐骨神経を切除した除神経マウスの術後炎症の回復を検討した．その結果，除神経手術１，２週後に増加がみられた脾臓のサイトカイン産生量は，3 週後で対照群と同等であった．よって除神経モデルで外科的処置による，脾臓のサイトカイン産生を指標とした侵襲の影響は 3 週間で消失すると考えられた．それらの結果を踏まえ，外科的除神経モデルとして，マウスに術後 3 週に灸刺激を行い，末梢神経系の影響を検討したので報告する．

老年看護学実習レポート分析からみえる教育的課題

東　孝至, 栗山　真由美

看護学講座　広域看護学ユニット

【目的】老年看護学実習の履修における「老年観」について，レポート結果から高齢者を社会的弱者として捉えてしまう「認知の歪み」につながる語彙を抽出し，今後の老年看護学教育の教育的効果を図る.

【方法】分析は計量テキスト分析ソフト「KH coder」を用い，研究に同意したA看護大学看護学生56 名の「老年観」に関連した頻出語を抽出し，それぞれに対して頻出語上位50を抽出し，抽出後共起ネットワーク分析し，抽出された認知の歪みについてKWICコンコーダンス機能を用いて分析した.

【倫理的配慮】本研究はA大学のヒト研究審査委員会の承認を得た.

【結果】老年観を関連語とした共起ネットワークでは，高齢者に対するプラスの表現（2語）より，マイナスの表現（6語）が抽出された.「老年看護学実習前」に認知の歪みにつながる文脈が多く読み取れたが，二重否定に用いて「実習後」には肯定的に捉えている文脈が見られた

【考察】抽出された認知の歪みにつながる語彙を踏まえ，実習前の老年看護学概論や老年看護学援助論で「なぜそのような老年観をもつのか」と内省することで，更なる老年観の向上として教育的効果が望めると考えられる.

感染症発生後のA病院における新生児ケアを担当する看護者への感染予防に関する負荷の検討

中井かをり

看護学講座　広域看護学ユニット

【目的】A病院においてMRSA感染発生以来，感染予防策が入念に行われている．本研究では，看護者が担っている感染予防対策に要している時間を集計し，看護者の負担の程度を分析する.

【対象と方法】2002年7月に，史上最大規模のMRSA感染が発生したA病院の産科混合病棟に所属する看護職と，その病棟で出生した正常新生児を対象とした．研究者がマンツーマンタイムスタディ法を用いて正常新生児への看護ケアと看護時間を測定したデータから，感染予防対策に要した時間を抽出した.

【結果】生後日数ごとの看護時間は，日勤帯8時間の中の2時間余りの時間を1人の正常新生児に提供していた．その中から抽出した感染予防のための時間は，18分53秒から33分19秒であり，看護時間全体の13%から21.2%を占め，平均時間は16.2%であった．感染予防対策の時間は，生後3日が最も多くの時間を提供していた.

【結論】感染予防は医療に携わるすべての医療人が取り組むべきことではあるが，看護者免許がなくとも実施できる部分はあると考える．正常新生児には看護人員が配置されておらず，育児を行っていくうえで母親は看護者を見本として育児技術を獲得する．母親への育児技術習得には十分な時間をかける必要がある．より良い新生児への看護を提供するために感染対策を看護助手レベルでも実施可能な業務として引き継がれるべきであると考える.

正常新生児への看護量測定にかかる研究方法の検討

中井かをり

看護学講座　広域看護学ユニット

【目的】看護者一人当たりの患者数により診療報酬は決定される．しかし，正常新生児は診療報酬対象として加算されず，新生児への看護人員は配置されていない現状がある．そのような背景下，必要な看護人員数検討資料作成のために新生児への看護量測定を行ってきたが，これまで実施した測定方法についての改善点を検討する．

【方法】これまでに実施した正常新生児の看護量測定方法（タイムスタディ法・情報通信技術活用法）の利点・欠点を挙げ今後の測定法を検討する．

【結果】タイムスタディ法は，詳細な看護行為データの収集ができるが長時間の測定は困難である．情報通信技術法は，長時間のデータ収集が可能であるが，細かい看護行為は収集できない．いずれの方法も利点・欠点はあり，完全な方法は双方の測定法の利点を繋げることであると考える．看護量測定は看護者・対象者のストレスを最小限にし，かつ負担を軽減するためにも人的観察に加え人工的測定方法の活用を視野に入れる必要があると考える．そのために他の学術領域とのコラボレーションによる研究が望まれる．

【結論】各施設で看護体制が異なる．看護体制などの条件の違いを考慮の上，研究方法が検討されることが望ましい．看護量測定は古くから行われてきた結果，今日の看護による報酬が決定されているが正常新生児に反映されるには至っていない．少子化の現在，一人ひとりの子どもを守るためにも，本研究の今後の継続が望ましい．